



柳名所圖會

後玄武

六



都名所圖會卷之六目錄

後元武

下加茂

葵系之系

岩本社

清美藤池

行遠土手

北岩倉大雲寺

太良坊社

暗部山

靈源寺

藥師寺

岩門

御手洗川

競馬圖

松ヶ崎

地藏堂

八塩岡

智辨水

ふごおろ

帆立石

神光院

鷹ヶ峯

光悦寺

河合社

上加茂社

本涌寺

幡枝圓通寺

長谷八幡宮

鞍馬寺

竹伐系

大悲山

正傳寺

法義壇林

千束

紀川原涼圖

橋本社

妙泉寺

市京小町寺

小町塔
少石塔

朗詠谷

僧正谷

貴船社

御船
龍玉塔

西加茂

送火船場

源光菴

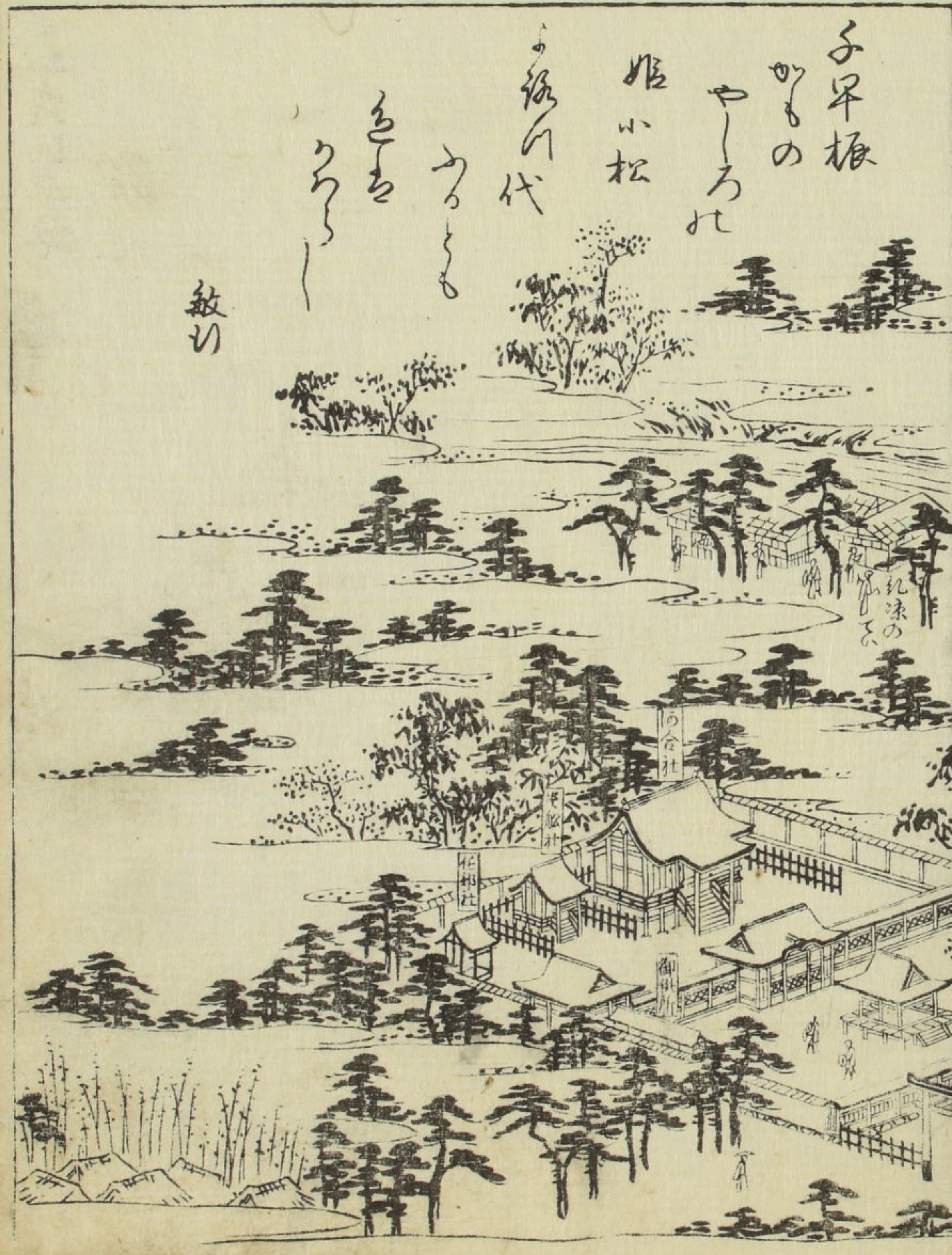
題目堂

菩提瀧	岩屋山	小野道風社	冠石
紫野大徳寺	今宮社	ヤトシ系	常盤前古跡
義経誕生水	舟岡山	雲林院	蓮臺寺
今宮御旅	金山天王寺	红梅殿	七の社
清和院	立本寺	焰魔堂	釋迦堂
引接寺	轉法輪寺	七本松	芝居
北野天満宮	内野遊女町	東向觀音	糸向松
大岡茶湯旧地	願成就寺	平野社	紙屋川
金剛寺	衣笠山	鏡石	等持院
芙蓉池	龍安寺 <small>紫香</small>	真如寺	妙心寺
双園	兼好古跡	法金剛院	西光菴
御室仁和寺	花盛園	大内山	唱法妙光寺
印金堂	泉谷法藏寺	西壽寺	般若寺

三宝寺	五智如來	宅魔塚	平岡八幡宮
梅畑善妙寺	柵尾專山寺	植尾西明寺	高雄神護寺
清瀧川	地藏院 <small>紅葉名所</small>		

橋の小川を
 舟子洗川の
 一名ありて
 奈々社の
 うしろに
 あり
 細川之
 初勅撰
 風そよぐ
 小川の
 夕暮あり
 みそねを
 こゝの
 あり
 ありたり
 宗隆







定家

考

れ

み

や

か



下加茂所本社

き

ね

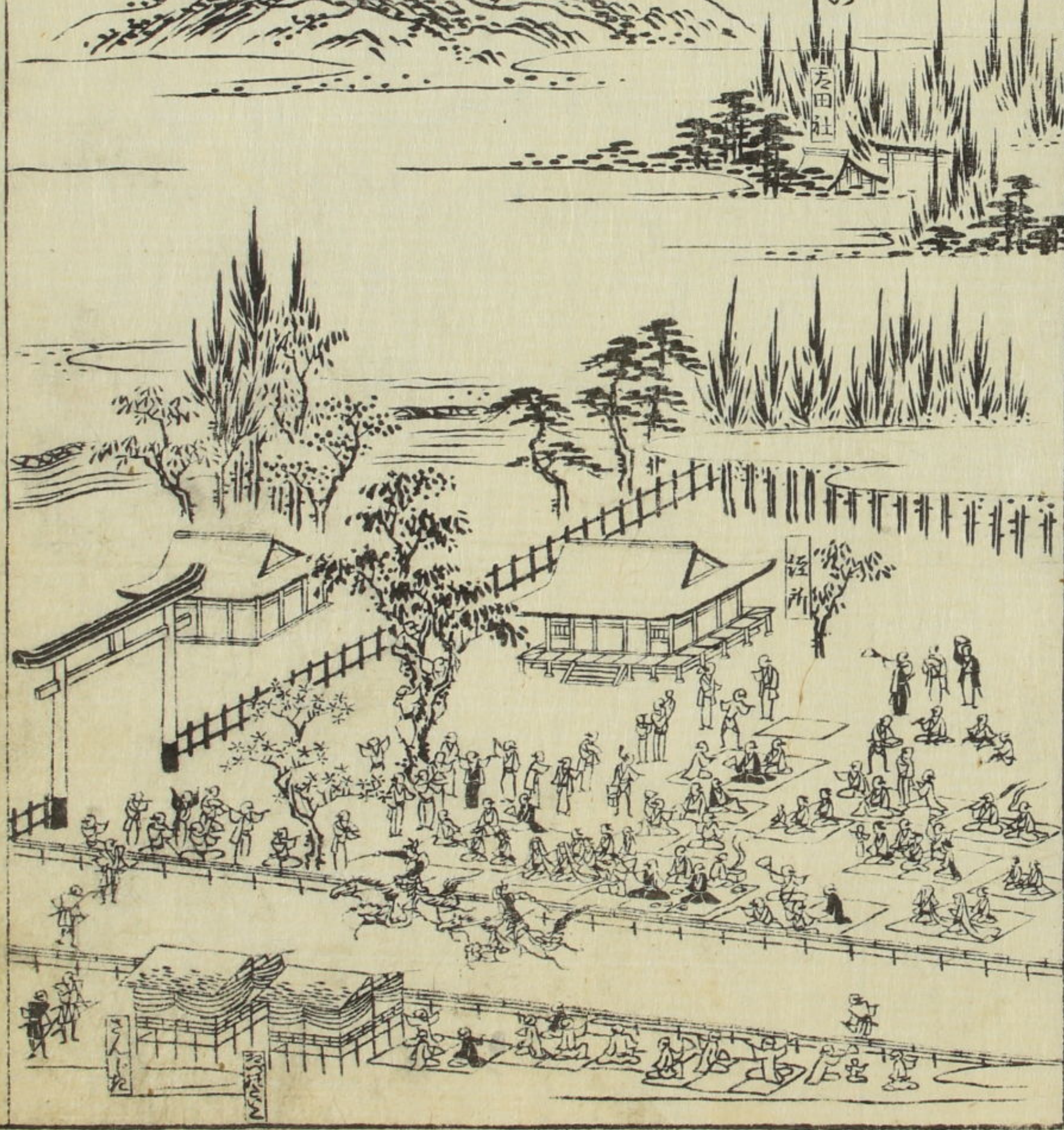
あ

と

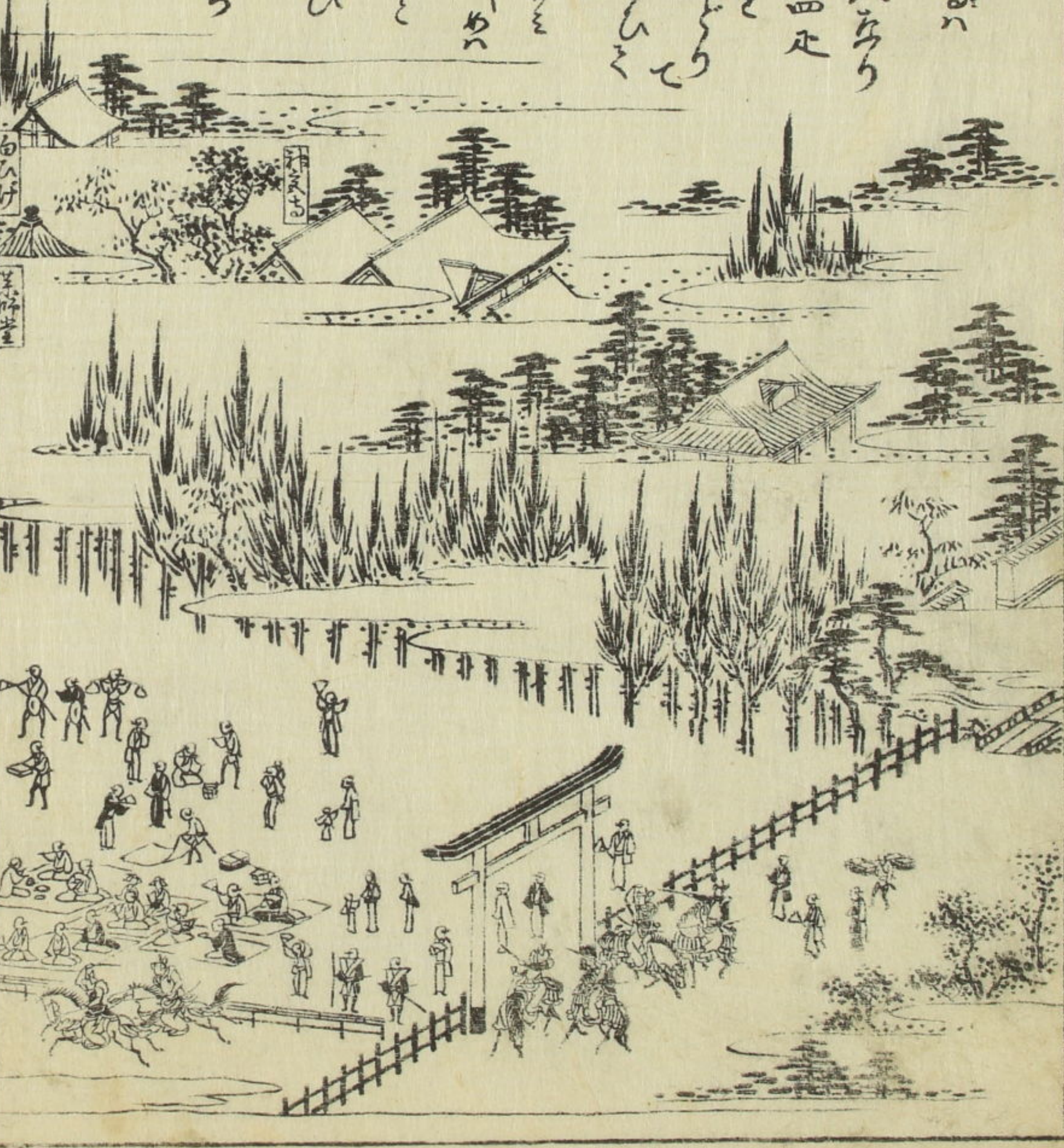
ま

石川

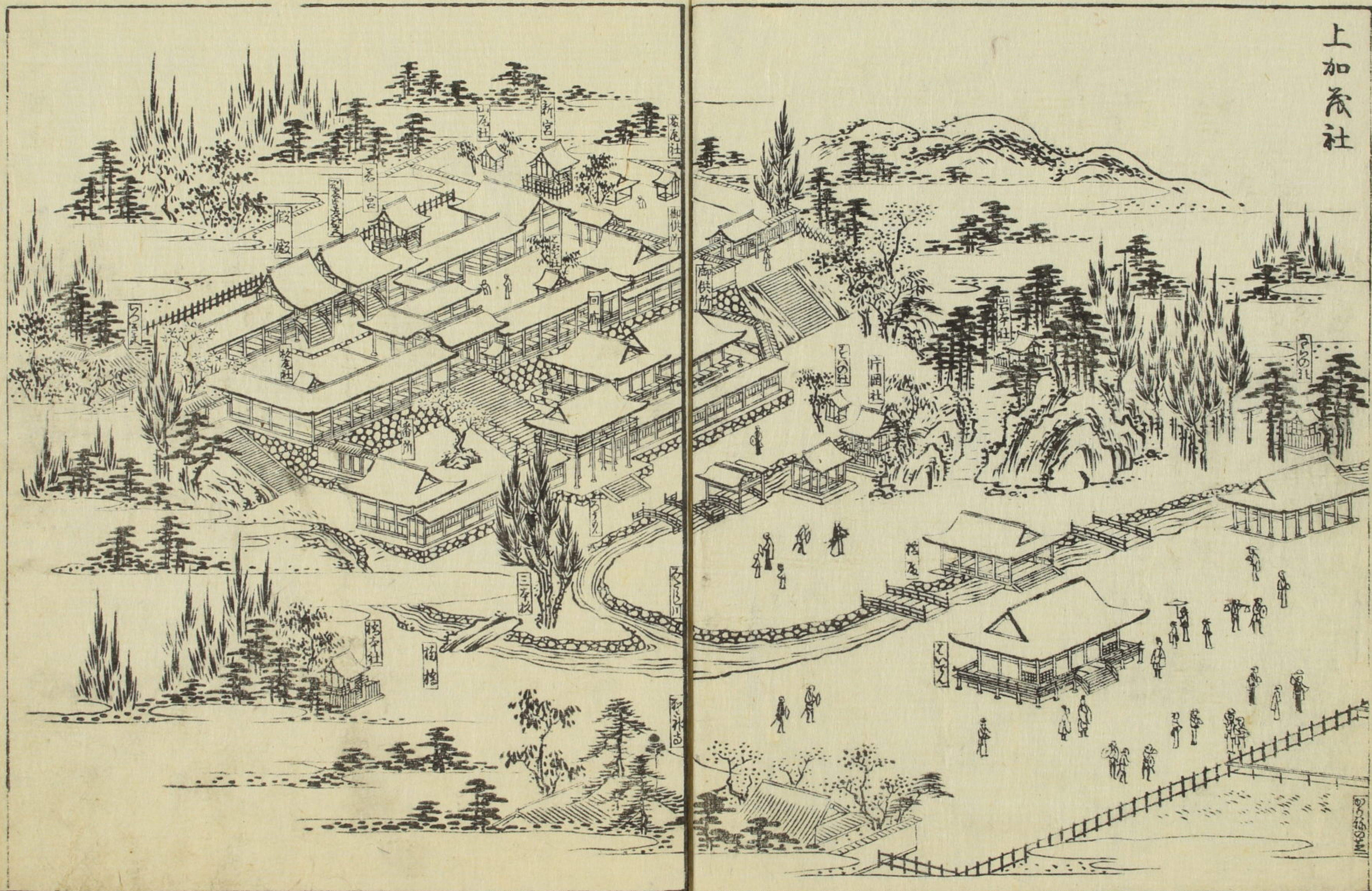
又月又日の
 くらゐるひ
 ままのど 二十四正
 一と歩の月を
 赤くくるとついで
 こせいでん
 熱るのくど
 あはれ
 清くくひを
 ありしより
 けけるのひら
 まけふより
 けくしと
 こせ
 ぬいしより
 るゆり
 うんのそめ
 云ゆりの日と
 ついで
 け日といふ
 又月又日の
 星掛
 あつてついで
 されい
 権何法師の
 うんた
 うらの
 うらに
 藤
 さまの
 かりまけ
 おねのこれ
 ひらの
 うらうら



又月又日の
 くらゐるひ
 ままのど 二十四正
 一と歩の月を
 赤くくるとついで
 こせいでん
 熱るのくど
 あはれ
 清くくひを
 ありしより
 けけるのひら
 まけふより
 けくしと
 こせ
 ぬいしより
 るゆり
 うんのそめ
 云ゆりの日と
 ついで
 け日といふ
 又月又日の
 星掛
 あつてついで
 されい
 権何法師の
 うんた
 うらの
 うらに
 藤
 さまの
 かりまけ
 おねのこれ
 ひらの
 うらうら



上加養社



鴨下上皇吉神の御社天武天皇白鳳の造営ありて下の社神祇の神が茂

健角命の御孫玉依姫命と云々一ゆはあつ耐漱のふはれやうに於けるふ

丹塗の矢印の御孫に來り一紙拾ひあり居れ人けう一並志と云々

卯と云り終小押のこ紙りけぬ一日里人とあけ富紙傳一紙とあ男子

にのへははたさうのへつひせはるに並と虚をふさげうら神と何とそれ

天に昇りぬ皇宮上の社別雷吉神と云り丹塗の矢印火雷命と云り

養奈の卯月中の酉日欽明帝は御宇に始り大内より御車出と云々

騎るあまのむしうら紙くは書樂と奏一具儀式者市に一て貞藤の

約紙化と云るびあ紙系礼なり ありと云々の

ありと云る社司とのくわひと云けきるにやあり

新吉今 神あり神ありあひのふりせは何ふ紙と云けて云す

又月又日の競るいみ一入内裏武徳殿にいと騎射けるあは例と云りや

初小足林あり神友達茶茶の教米と着一左右別と騎負相と云る場のた

わり足らち中を落さると紫抄にけうと紙員と云六月十九日か晦日といふ

とそ伊洗川は道は法人住妻すと晦日とい鴨の神ありあつて猿亦あり

鏡めと云りあつてのあつての面ふと云る斗れ中と云り

けあいか茂へりてと云る人の茂に云々

日蔭ふ二葉とい鴨神友の赤小ありて御生ふは別名と云り石川瀬の

小川鴨の御川と云い皆みと云り川と云るつらと云りや

徳吉今 天の代も我世もは紀一石川やせれ小川の絶と云るい

家集 隆吉の代も我世もは紀一石川やせれ小川の絶と云るい

徳吉今 隆吉の代も我世もは紀一石川やせれ小川の絶と云るい

岩本橋本の社に伝右おれ二社とも業平實方の化現するいとも

右記小いり平安の系は百五不易の教あり東に嚴神あり西に猛

あはく別嚴神鴨吉神と云り猛具は松尾の靈社と云り二社の鎮

よのく第代平安の福と云るもは神社の威徳と云る

松ヶ崎



ちとせぬふ

松の崎

むれ井浅

さのえ

あそ

心阿々

え補



御菩薩池



松崎本涌寺の圓基日生上人の七日蓮宗流り天正年中に法華圖純
 の字室とるの如泉の日の像上人にたてしむし一所ありて同宗なり
 每来七月十六日堂の中人あてけ里の若者男女うち交り顔目みちり
 洗け舞やうしく拍子とり踊るなり是るん松崎の歌目たどりて
 名ふるし其夜うしろのふ小ねの如法の二字と焼火に記し是
 會の送史ととるなり。

御菩薩池の幡枝にありて傍り地蔵堂あり平相國法盛の代西
 法師のいふかみしやうたて地蔵堂の其一なり
 市原の普陀洛寺のいふへ清原深喜父の幽棲のいふと春地はこり
 丑寅のうらめて堂の若くして後白川上皇大京の女院と訪ひてけ
 所取通り普陀洛寺小所幸のりあり
 の墓ありあり人市原野にありしにそと一むけしうらけあり
 秋風の吹りしけてもあかしく小野ふいしく為ねむり

市原小町寺



小石藏大寺の天台宗ありて存するに親世を祀る立像あり行基乃他
 とを称するの如く其の五峰の小社を小石宗とすのたるべく所ありん人
 をあやむむ云よめて勅使として右近衛中将何基ははらへんせしめ
 らふけふ此嶺より勅使不忠儀小石といふより忽ちとして明らり
 雪原つららるる老尼現れ曰此地のあり親世を臨み地之入る時不
 つらふ異香四方に薫しつる靈嶽あり是と窺ふとよはる樂と奏して
 其の中より親世を祀る光明赫々とはる體を祀りて此地小石藏とて
 らひて行基れ祀りぬひし尊像を奉るとるは大ききおれ頼の詔ありて
 佐理卿を派遣すむいりり今本堂に同基の智多僧正あり借教書入し小
 を石藏とるゆらるる詔ありて其の四方に石藏といふる経を
 と納めらる其の通りより石座明神ありははるる石を祀りぬあへりり
 八鹽固いむらやんくの根をりて秋のまへ紅葉とらるる蜀錦を懸ふらり
 あらば今人の尾崎小石あり



北岩倉大雲寺

八鹽岡



長谷八塩宮ハ惟仁親王の勅修シテ所之長谷花園中村ニ郷

の氏神ありて祭ハ八月十五日神樂一基あり

朗詠谷ハ大納言公任郷の幽居シテ入齋修りけ所ハ長谷川

を傍て水のくさき山中に入りて又六町をりこれ我道也

解脱寺と云ふ地あり今小礎石の跡あり押のく公任郷

出家シテ入山を星より一町をり小又我道也平地あり

彼郷ハ所ニ住りし和漢朗詠集撰ト云ひト云り又

所所谷ト云

世をそのむき長谷りゆりり入乃中村のそやきり

後拾遺 谷風小されけりくあらんをいそくすそありその取 公任

長谷川ハ八塩の是れ小塩谷より流れ出く長谷村の中江

西へあぐれ岩倉大寺のあぐり南小森を幡柱ふるりり

花園ハ長谷れ南にあり

鞍馬寺



山門
の
門

身
の
門

本
堂



中
院

後拾
住
の
月
の
小
の
山
の
山

松尾の鞍馬寺に宇治の白鳳十一年天武天皇大友皇子は所すて
舟のひらいて鞍馬にけるはあはれしより鞍馬と名つけし神あり押
けし延暦十六年に大中寺藤原氏の系創りし人佛小陽とて名
たつ勝地を求めし精舎を造りてあまの御世を安んずるに於て
あつ夜の着い洛山の空に雲を息を吐きて白雲に老翁形に現れ
天下にこれ形に之を銘し之を以て神とて名づけしは建
立せし利益を尋ねし人々を安んずるに王城の法鏡を以て神
なりとて名づけしは神の所もあらずとてありしは久しく神に
びりし摩騰法師の舍利像とて白雲に系世を安んずるに其
靈蓋ありて汝定て着の地を以て神とて名づけしは神に其
る神の示るるに神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
具に神の示るるに神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
宇を以て神とて名づけしは神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其

とげざりしとて神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
親世を以て神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
願ひ今もいなりとて神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
の西に親世を以て神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
十符の福とて神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
踏る勢とて神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
人本堂とて神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
堂の近に方親世を以て神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
家此を以て神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
はせとて神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
けし小分入れしは神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
ありしは神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其
あく又當に用ありしを以て神の神ありしを以て神とて名づけしは神に其

本堂に小まの園伽水溜くして涌出今にたむるはまうん竹さの
 蛇ふるまうる星取きりて魔反拂ふりね又夜にんく異儀をそん今堂
 け中に存せしめ院氣法力をい初殺し又行法をそりありの儀へいんく
 毘沙門天ける返答のり返を止む時ふも昔のいあね不忠儀のふも
 多のりた秘してのう液

鞆明神のくはの氏神ゆて大門のうらみ何りあわらごとく湯天己費命
 一産有り朱雀院の清時天慶年中に勅信ある由本と号するます天子此
 淨眼阿つひ世のさいぐたごさ勅を此社ふのけらるるり 例あり 九月九日
 庭石焼炭木芽漬は所此名産有り羅ねるしうす様世ふ名るる
 庭たけりくまればのうは様もね枝おまねもろくふ 顯考
 夫本らん 是やこのまねさうはくうす様くまればふさうけるるるる 定規
袖中抄云 是珠搦の唐鞍此を珠み似るるの鞍の搦よま有りこそ
 僧正谷の源平を異人に遇合刺撃乃法さほくさく人あとなり

六月廿日
 鞍馬の竹伐





貴船社

五ノ上

貴布祢社へ水神固象女神有り
其をくんと高雷龍とそ中けつひ
徒の跡ゆき今と雨と情多
社司ともきつうのふ系りて

お月湯田わうふりて
貴船川玉らる瀬の岩波り
秋風の吹々くれば本船と

楓取社へ二津の里れ小に
神代れむり一糸の神本船

足酒石の本船川の中は
登石の本船くまの落合川

おとりのほ巻の巻くま
とを祢也とい街とのく
奥ふまたたりて落る

式部そのくら巫をひ
本陰にまのくれば
つハ式部うかうら

子子振神のふるも
いよまはりたれ保昌
別式部とくして

晴部へ貴船とぬい
くうやまこまら

梅花白くろくろく
大悲心くまは

平相玉清盛れい

...

...

...

西加茂



毎年七月
十六日送火
して此の
心くちを
焼くは
そのゆゑ

正傳寺



薬師山



鷹ヶ峯

岩屋山金峯寺ハ漏樹峰のふあり奉尊ハ不動明王ハ此ふの古
茶王菩薩現ハ一人靈場之同基ハ役行者又弘法大師也
て靈法修ハ一人所あり棧敷嶽ハ岩屋より一里よりあり
ありて惟喬親王横屋といふあり幽居あり一所有り

西加茂神光院ハ同基弘法大師也ハ自他の像故岩屋聖王像一尊
投除所平首
愛深明王弘法の他此れ奉れ且の月旦の日に
此れを修りなり後水尾法皇の御願也ハ同基佛頂國師ハ奉尊ハ釋迦佛の他也此れ奉れ且の月旦の日に
此れを修りなり同所靈源ハ後水尾法皇の御願也ハ同基佛頂國師ハ奉尊ハ釋迦佛の他也此れ奉れ且の月旦の日に
此れを修りなり

後水尾帝の聖像又同山の像故安原辨財天社東福院の所也
撞鐘堂
此れ奉れ且の月旦の日に
此れを修りなり吉祥山正徳寺ハ同所あり禪宗也ハ同基ハ東岩宏光禪師之
一ふハ楓樹多くなりて紅葉ハ千枝爛熳楚岸兵江と

船れ送り火也正徳寺のうしりれハふあり例年七月十六日れ育に
い所あり船の形ハ火を燒聖靈會の送り火とす

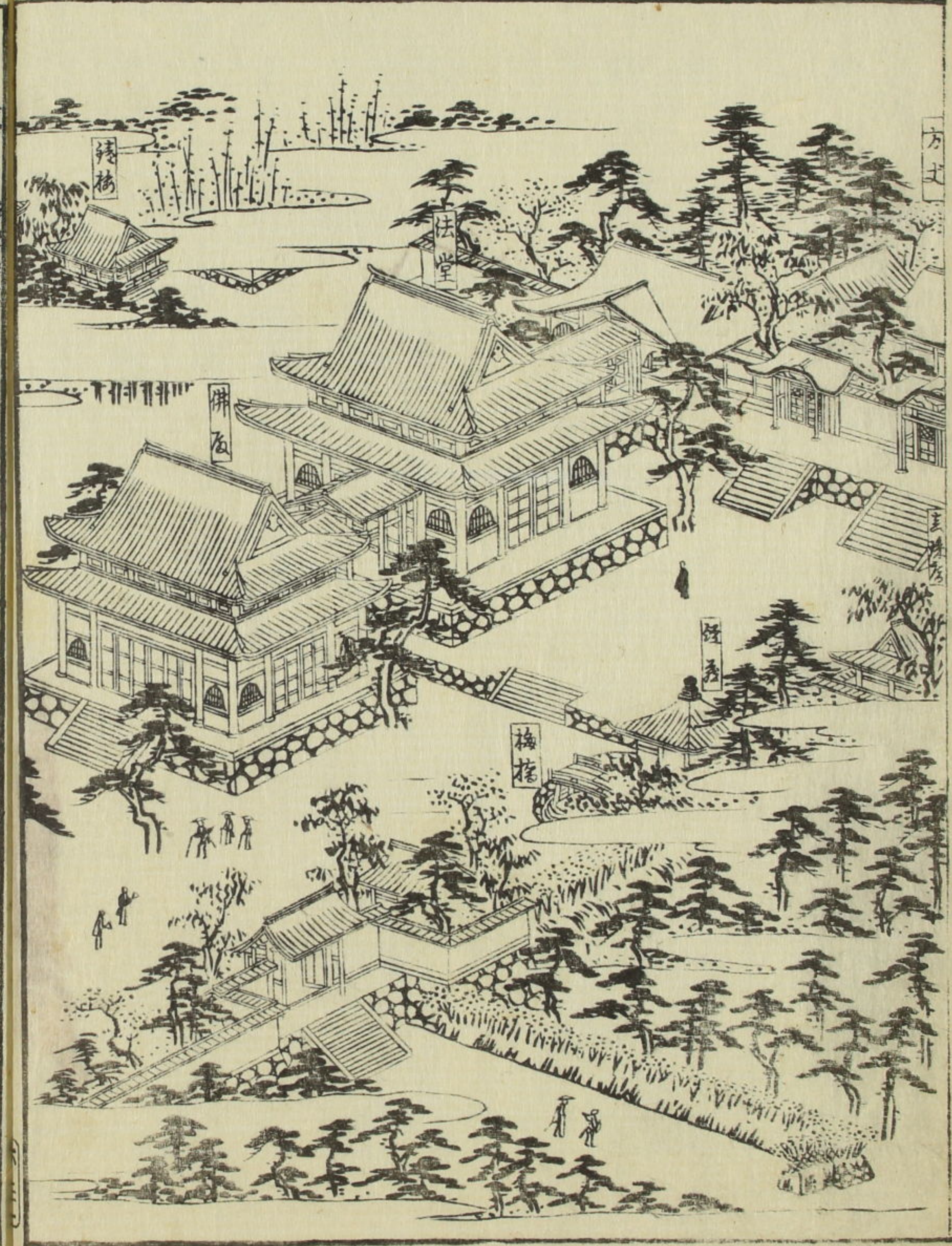
藥師ハ草堂をむとて瑠璃光如來を安置也ハ同基ハ
嚴重ハ傳教大師也ハ同基ハ
鷹峯寂光ハ常照寺ハ法善宗也ハ同基ハ日乾上人あり
日源光房ハ淨宗也ハ同基ハ
日光悦也ハ法善宗也ハ同基ハ
大虚房ハ羅山先生也ハ菴の記をくけり羅山文集

日龍目堂ハ奥あり常行題目と唱へてびざりあり
石門を築小にあり兩岩ありて具る此れ敷土門を構此れ似此れり是也
靈巖寺ハ石門とてハ同基ハ
兩社の密教を授也ハ同基ハ
菩提樹ハ同基ハ一里より西ふあり

小野道風也ハ一海ハ板板とてハ同基ハ
冠石ハ東河内の中ふあり冠の形ハ名とす

冠石ハ東河内の中ふあり冠の形ハ名とす

大徳寺



龍寶山丈徳寺の今更の南にあり閑基大燈法師の名に始り一燈の氏
と播州揖西の人の父母子なり一燈の父は名に始り一燈の氏
一燈の母は名に始り一燈の氏なり又葉の初は名に始り一燈の氏
好り母は名に始り一燈の氏なり今五眼光のやと異なりして十一葉の
山の戒信法師小法師の經書と後九流の孫百家の異道とを家ありて
もそとをそとく宗師相授小ありと後くのる宿小冬同して後連名の
大燈法師小禪悟道一門子となりぬ大燈の延慶元年十二月遷化
わけて母は名に始り一燈の氏なり閑居しけるある夜の夢に佛の
来り出世するのしるしありて宗師小入佛教いたとぞとて法をこり
たりれとてとて又洗心子と惠法師具外儒者九人一志小禪宗と破
らんふく張朝廷小養一議論とてくみそと後儒のくく小負ありも
才子となり洗心子入室を録一丈徳の方丈と建雲門菴と号ありて
花園寺の始りて先一佛法不思議と佛法對坐と勅めたりぬ始りて
王法不思議と佛法對坐と勅告せりて後醍醐天皇にさう御書
いふく海く辱も授攝頌衣養等たりて興禪大燈法師號と賜ふる也
正灯法師の号と加賜の延之二年丑猶月廿二日遷化と書又十六
佛敎の教世傳と奉るなりて梵天帝教天達摩臨濟の傳衣安を
門菴小大燈國師の像あり具外花園院後醍醐院後土御門院に神
ありは及大燈法師の画像も傍小あり
真珠庵の一体和尚は小住居のひ一之善珠庵と一体は善珠庵
額あり庵小住居あり和泉武敏が夫お住居の宅地ありといふ
當寺の伽藍は赤松園を同じく則祐柱石の料紙ありて門はま宗長
宗長修造一圓の千利休方丈門の明和光秀寄進ありといふ
むらたの寺の今更大燈とされたりなり
後たの
福とれとて善珠庵ありて小住居とて善珠の庵とあり
徳人の寺の今更大燈とされたりなり
善昌

善昌
右上天皇

今宮社

今宮の

あつち

まじり

の

宮古

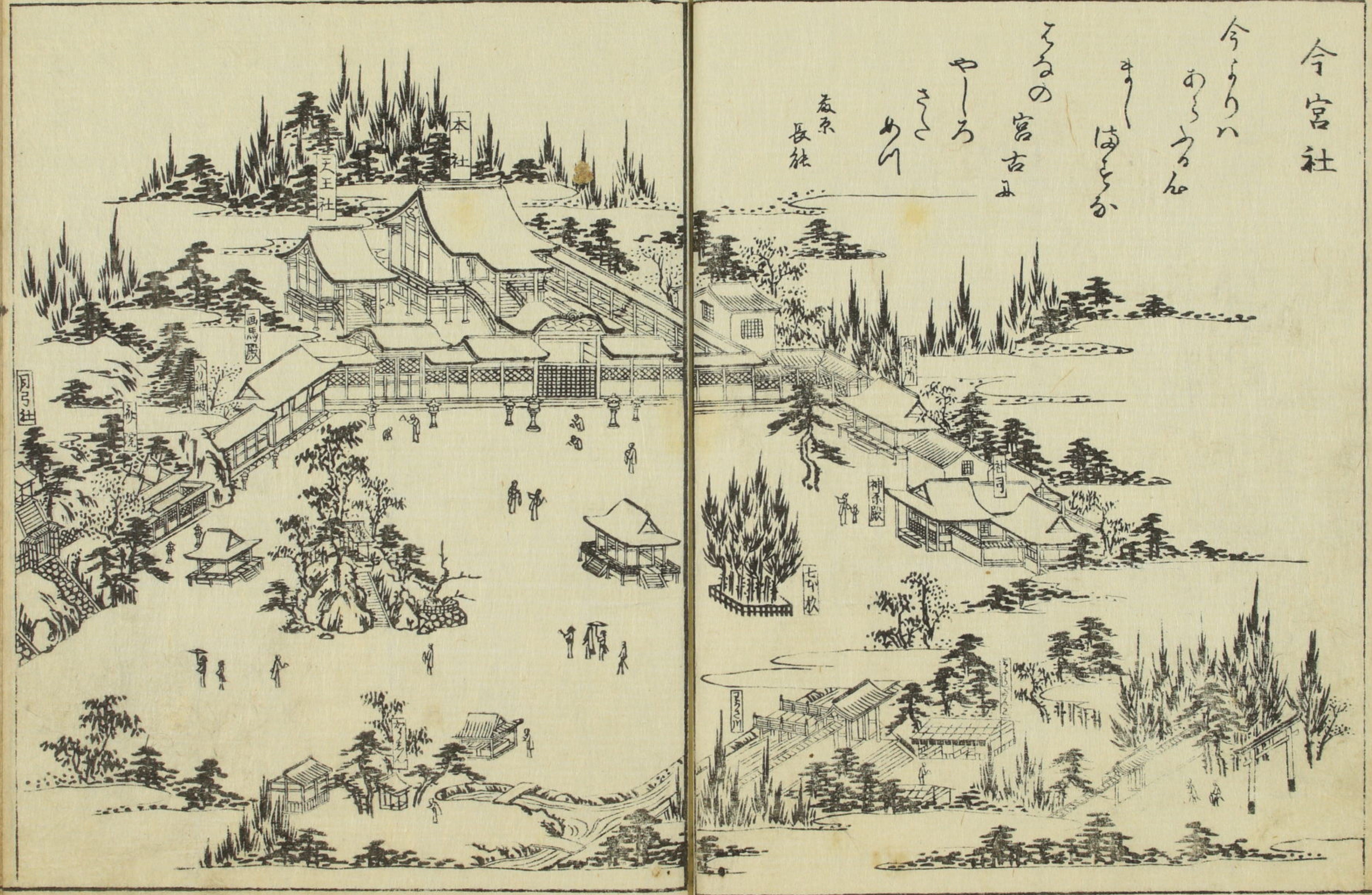
やしろ

さく

めい

長

社



當所と
 加茂乃
 人々社
 ぬぐり
 やまひ
 花よと
 たのゆれ
 神名
 いそめ
 瘦痛と
 ろり



紫野今宮
 二月十日
 ちしん系



蓮臺寺
雲林院
舟園山



七の社ハ舟圍の南ふあり當社の深殿の后に祈願ふなり二堂の
の表日明神社に勧請すし海をこ其後伊勢に清水橋加茂
松尾平野に併せたり七社と号を又一説小治に少く七社あり
因に小治柏野蓮臺社上野平野等の中小なる社を
あつて入るを諸願ありとのい社あり砂を積む之を山に狀
う川をたり春日祭向の標れ本もけ地あり

今宮に津路所の雲林院の異ふあり每歲五月七日奉社より神樂
遷座ありりり茶店敷をつつ芝居放下師奉弓柄弓乃
終に十八日神樂ありしを賑ひたるいん方なり

上品蓮臺寺に千本通の山頭ふあり同基聖徳太子なり其後
僧正觀空位職して甚言宗とありむ奉尊地藏菩薩の
聖徳太子の御化なり又弘法大師自化れ像坂安並及寛平
上皇に所ふおのて蜜權と稟あり

元亨釋書

金山天王寺に北野社東の門通ふあり天台宗ありて奉尊如意輪觀音
ハ聖徳太子の化あり 洛陽観音巡の 同基ハ聖徳太子と則自化れ乃
像坂安並及太子堂の額ハ釋迦如來轉尊毫光所上宮太子澤跡
中心と書して小松院の震轉なり

紅梅殿ハ天王寺のありあり所管神の愛ハハ飛梅ハ靈神なり
清和院ハ七本松通一条のふあり真言宗ありて聖觀音地藏菩薩
の二尊坂安並及原を系極通春日ふあり今清和院佛門に號と

明曆年中ふけ地に移と

具足山立奉寺に日通正親町に西あり法華宗ありて日像上人ハ同
基ハ祖師堂に安並及日蓮上人の像を曹影として初め松永久秀
ハ男右湯門佐久道侍は佐々木廣次とハ者出陣の時山中に懐妊て
曹影を産ひ土中に藏む盗人ハ坂棄んとするに磐石に如くハ不惶ハ廣
次ハ懺悔して當宗門に於け尊像ありして終に遂々

七野社



千本焔魔堂の蓮皇寺の南小あり引接寺と号に宗旨の真言の
 本尊の焔魔大王ありて法橋定朝の他當寺此(同)基の定覚
 律師と鐘れ後あり大念佛の文永年中に如輪上人の
 ありし寺に橋小普賢像といふあり孫生の此花盛りとありて
 狂云をそむむる一説小むの望乃窟に日藏上人眞土り
 いりりありの帝いりて上人小向ひて宣し中への我婆娑の業
 因縁入して今遠きたりとをいふとあり汝婆娑小瑞つて家
 為小千本の卒土波の供養と一昔れおと源のふ
 いりりく控の底小入ぬと利利も首陀もつりりり
 日藏肝液袖小ありありとありの差形りけ有派奏園して舟屋ふ
 千本此卒土波の建當寺と遠きといひりき源ゆつひ供養
 大報恩寺の引接寺の西小あり千本釈迦寺といふ本寺釈迦佛の安阿孫
 の他之宗旨真言の基末法上人と

其二月に基末法の法舎あり
 世人あがとていさめり



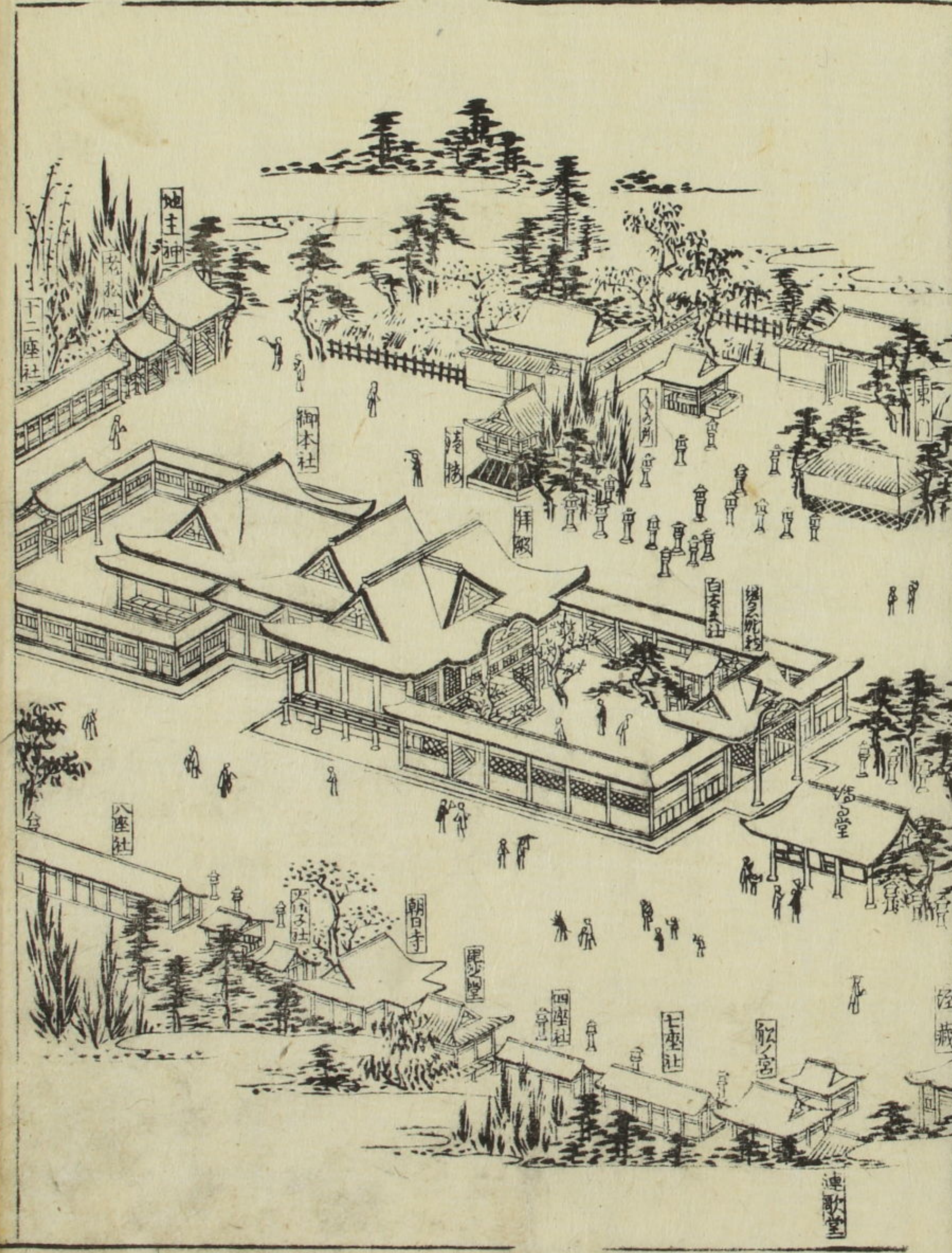
本堂

轉法輪寺



七古松

北野天満宮



小野の王城の山西に方なり天慶年中に... 諸君の人陰謀と云うは約は... 神威つらら...
る... 諸君の人陰謀と云うは約は... 神威つらら...

小野のまよふてなりたり

後後撰
くろく... 神のまよふてなりたり

白河院の... 白河院の... 白河院の...

竹々... 竹々... 竹々...

後言... 後言... 後言...

天満天神宮 中殿 中將殿 菅丞相 菅宮嫡子 吉祥女 石上小方
菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

菅家... 菅家... 菅家...

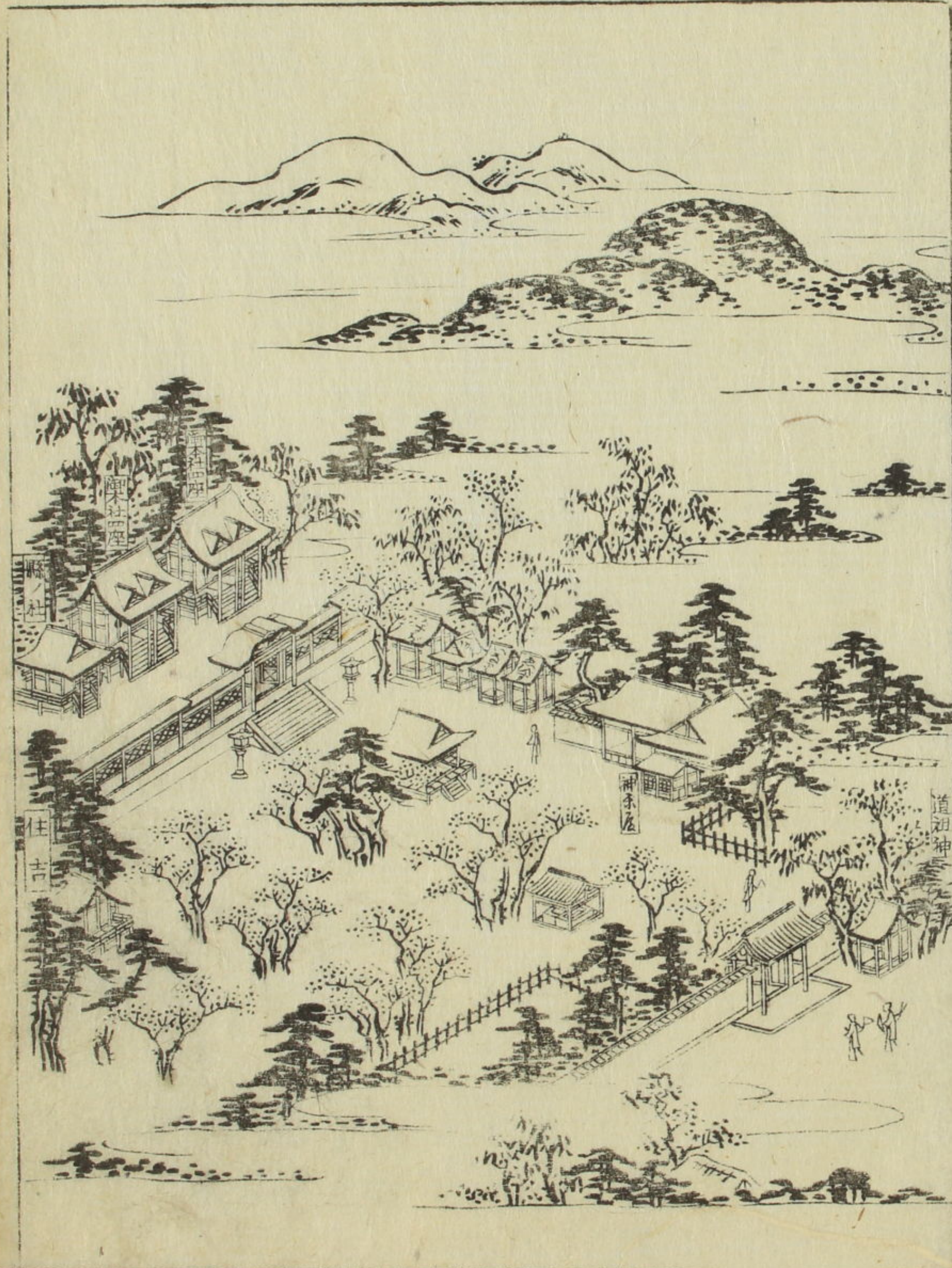
とありまに於て朝日寺の備最珍石系れ文子等と力を合せ靈祖成り
天徳三年石大長師捕らぬも神威をうやまし魏々多の太度とありたあいと
るゝあふ今れ小所宮足二条院の御宇正暦四年八月に勅使を宰府に安
楽寺小法師大改を長正位を贈りあり末社小社の宮とあり一徳一夜乃
松よりい初小神秘はてふありとありや 已上 俗家
二月廿二日の菜種の新供に御神事あり七月六日の御幸より七月廿二日
殿に入神寶中干あり九月四日尚社の祭あり

日向觀音の光明塔に西側小あり奉るに梅樞の二樹に似て菅新津あり
きこまをのり十一面觀世あり
預成就寺の日向松の岬小あり奉るに松也多寶佛に二ありけ寺と
足利將軍義満公の名氏清と内膳小於て合戦あり義満討捕らぬして
氏清の首級得たり氏清の金双の勇士ありゆ人其追悼れたちを道場
建一万部の妙典と讀誦しあり故に經王堂ともい

平野社の小野より乾みあり奉るに神四あり源平高橋大江は四姓乃
氏神あり日本武尊 神四あり源平高橋大江は四姓乃
神四は味神 天照右神 神四あり源平高橋大江は四姓乃
縣社の大穗日命 中乘諸系 四姓は氏神あり奉るに内膳武天皇延暦年
中に建立せり清くありあり正一位清和天皇貞觀六年七月十日小川
をわつ例祭に九月上の申れ日あり

拾遺 元補
生まげまじりりね系れあや松よまれば系よまじりりね
難波はままよりりせなるねもままも松よまじりりね 家隆
ちりちりちりままも松よまじりりね 家隆

紙屋川といひむくは川のなりありあり紙をすた高なるり
大嘗金の湯とて其見川の橋とて平野の橋ありありしとて紙をすた高なるり
川の紙屋川の別名あり又仁和川といひむくは仁和寺の橋ありありしとて紙をすた高なるり
紙屋川のなりまも院をまもく造つづけたりありしとて紙をすた高なるり



平野社

新載

あこやゆ

平野の

松も

くま

花候

長れ

あめ

あつ

あ

あ





丸海石

鏡湖池

金閣寺



衣笠山

赤松石

皇山石

金閣

方丈

安民沢
岩下水

龍門瀑

金剛寺のまがら乾衣堂とのぬりやんあり禪宗にして鹿苑寺といふ
 應永四年に將軍義満鹿苑院高僧とたぐ花巻派はくし金鉤といふ
 一面小形の圓のまがら乾衣堂として九山八海とるけ侍つるまゐるあり
 金剛之重みして第一を法水院といふ孫院のまがら乾衣堂の像あり第二は朝
 音洞といふ自然木の観音第三は法鏡堂といふ一枚板四壁の及びく金鉤を押し
 ひく境地とるまがら乾衣堂といふあり熱門の紙屋川の西今の地蔵院の傍
 わり礎今あり所を法鏡といふ金剛地廻りまがら池ありて法鏡といふ
 及橋飯茶と比れ南に拱小橋あり巽に小浄堂あり東に地藏堂教休具
 地を地藏寺といふ具小大塔あり本尊弥勒方丈は小一室あり観目尊
 と號しぬ小方丈を觀は地ふとるれといふ
 鏡石の金剛寺は紙屋川のまがらあり石面が晶はふと乾と迂る紙
 のて名とせり
其物名 くらん玉れ家系髪やわらんらん鏡は乾ふとる侍白書 貫之

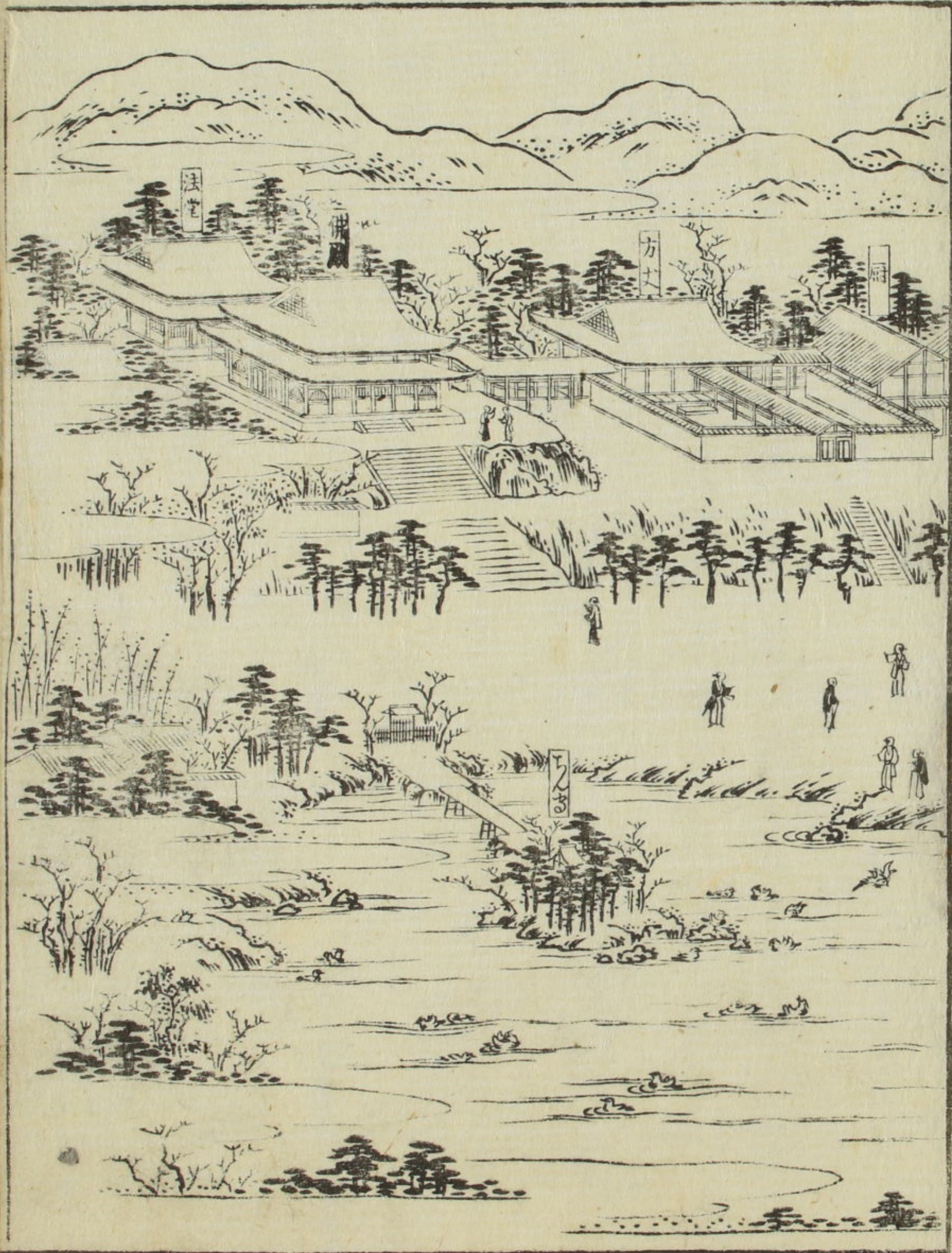
鏡石の物の乾とくうりて
 あらうらうら怪石ありむり
 居士小仙人持りて石あり
 形度大みして石面乾といふ
 うく人の五徳はれを獲
 あらうら則其形あり
 のまらとるれといふ
 くらん玉れ





院持等





龍安寺

等持院の衣笠の地蔵あり

開基の善窓因師ありて足利尊氏公に建てるありしに仁徳寺乃
一院として本尊の地藏菩薩大聖歡喜天の堂鎮守六請明神等
今に互に古きと改むるの遺跡あり等持院の堅額に相成義満の等
足利家累代に昭堂の義照院義政公のつとむるあり證果の額に
開基の善窓のあり

衣笠の等持院のうしろありふり仁治年中に内大臣藤原家良の
別荘と建ゆ衣笠内大臣といひ是なり

新八帖
ころのあり都のいぬ井家宿の之内に地蔵ありたり 衣笠内府
繪掛のうしろにむす一室に法皇清室に於てあるは月の巻天又源
香に眺みおほむいけ筆に白紙繪のついでせまをれりたをりし
ゆへといひ傳へ

小松内大臣重盛の地蔵の地蔵の衣笠のふりし藤原あり

大寺の善安寺の等持院に西小あり

開基の義天和尚文明年中に細川右京大夫勝えりるありたり
初に大長實能公の心在り地蔵大寺公有公の代細川勝えり地蔵と
傳へりあり奉るに釈迦佛大元達磨の像東西に壇小あり惠光様師
像細川勝えの像安住の像の四天あり画の東福寺北殿司に奉る
方丈の勝えの館来院といひてるをなすは築は地蔵の風色は勝えの
物教ありり地蔵の衣笠に地蔵像あり遠小園の一陽來像あり温
氣ゆるり奉る一池に面水ありむれありまき冬の眺みあり
善安寺に地蔵奉るといひ名ふる

真如寺の衣笠の善松原村の西小あり

開基の善窓因師奉るに釈迦佛仏光因師像 壇下小安に達磨佛の
善窓の地蔵 地蔵像あり 初に善著尼といふ人ありて居て結て心願
といふ康永年中に善武藏寺師在修造といひたり





杉のま
 ありいれ
 巻の
 禁る
 新塔乃
 月も
 新の
 入道一品



雙
 岡

正法心師の寺に於て安んずる有本辻の西あり圃とい圃は圃師信州のくあり
 一とせ洛小なり大燈園師小なりて夜新園小より一夕園心を門北園の字成
 會得とて大燈まことと門大師来りて後て園心と號と後醜醜希乃
 同小答なり志も尊肯はるる其後花園法皇祿苑とて園心と位職と
 なるべし則法皇も方丈の後小一院といもみほせなるまね後玉鳳院とい
 佛殿の本尊釋迦佛左迦葉 右阿難遠磨臨濟脇壇の 神牌花園院後花園院後寺内院
 法堂小にあり經藏の東にあり玉鳳院の正西小唐門あり額に法皇に
 佛表等あり

- 妙心寺十境 和漢禪刹次第出
 萬歲山 仁和寺山 百花洞 玉鳳院内 高安灘
 麒麟閣 玉鳳院内 宇多川 妙心寺の 齊宮杜 東外川端
 度香橋 南門前 鷄足嶺 小山 南華塔 東寺塔
 舊藉田 妙心寺の内 花園

雙園の妙心寺の西あり二之園相並なり

雙園の妙心寺の西あり二之園相並なり
 一とせ洛小なり大燈園師小なりて夜新園小より一夕園心を門北園の字成
 會得とて大燈まことと門大師来りて後て園心と號と後醜醜希乃
 同小答なり志も尊肯はるる其後花園法皇祿苑とて園心と位職と
 なるべし則法皇も方丈の後小一院といもみほせなるまね後玉鳳院とい
 佛殿の本尊釋迦佛左迦葉 右阿難遠磨臨濟脇壇の 神牌花園院後花園院後寺内院
 法堂小にあり經藏の東にあり玉鳳院の正西小唐門あり額に法皇に
 佛表等あり

西光庵の双れ池の上あり浄土宗ありて向阿上人開基あり





御室仁和寺の真言密宗は其地なりとて光孝天皇の御願として仁和
四年八月にいつるのみ代に法親王は御法勢めて御門跡と稱し
のつとけふふとほりくるとや御室に号するは宇多天皇御
出家の後延喜元年十二月に御室といふ所に遷すはゆえ又承平乃
御門も天曆六年御出家ゆりては所より御室なり
金堂の本尊は阿彌陀佛観音勢至願土といふ観音院といふは親
世音といふは祖師堂弘法大師自他の像殿壇小堂平法皇は
表影依安にみま塔九所明神十二権現經藏園伽升下系の立石は
名不甲斐が等ともま當ふは住境ありてむのつとも橋ありといふ獄
近々にははのみありてはく枝葉といはまてく樹ありては次屈曲
ありてははれは御親供は花は盛ふは御殿は表儀表れ錦と争
ひ幕引くは盧松の酒小ぬき李白が恨は長繩といく西苑は白日と繫るは
海といは春色の風客花ふめく日返やむといは瀧あり

鳴瀧の仁和寺の西小ありは所の砥石も存あり

山家
志とくはそんあつみはせりれたれくは泪やる瀧乃川 西行

妙光寺は鳴瀧の里れ小にあり神は因大臣藤原経の長男右少将忠兼
追福のためふれ別業紙寺とるは妙光禪寺と号を御基は法燈
圓師あり本尊は釋迦佛と安と寶陀圖の額は本房和尙の筆に紫雲
臺の旧地いふ所の山上に造る即金堂の堂内は四方物布を垂れ押さ
當所の莊観ありてくまら
泉谷の法藏寺は美濃宗派ありて百拙和尚の御基ありは所西赤子
つは津土宗といふ本尊阿彌陀如來の裏に僧於此修りあり
五層ふの般若寺あり御基の觀賢傍に本願の大江玉瀨朝長あり
宗音の真言古義ありて本尊の文殊菩薩阿彌陀堂には孫院親房
勢至の三尊といふは觀賢僧正の存禪石の山の方よりふまの園伽井の
堂れうしろにあり



明
光
寺
泉
岩
西
寺
法
藏
寺



鳴瀧
五智如来



五智ごち山さんのの又また智ちのの如来にょらいたるとせのの山さん上の上ににるる殿の五ご智ち香かう不ふ親しん親しん也なりは

石いし佛ぶつととああれれ皆みな草くさ拈にん法ぽう師しけきききるるああののあり

三さん寶ぼう寺じのの西せいのの山さん上の上ににありて日にち蓮れん宗そうよりより卒そつききのの向むかひへてて釋しやく也なりと

上うへににありて開ひらく基もとのの日にち後ご上人じやうじんととせ

泉いづみ殿のいいのの妙みやく老らう古ことと般ぱん差さ寺じとのの間まににありて一ひとのの形かたち境さかいにに神かみ子こ覺かく性じやう法ぽう

親おや王おうけけ所ところにに神かみ室むろとといいととききにに信しんせせのの人ひとあり

山さん地ち記き
おののの傍かたはらみみ故こままののままにに佛ぶつををせんせんとと泉いづみ殿のままののりりに

長なが尾おれれ松まつ系けいけけ人ひと塚つとととくくととせ

ありしよよのの松まつれれみみととりのの香かう色しきとと夏なつ身みにに心こころ後ごををううららり

平ひら圓えんのの樓ろう宮みやのの弘こう法ぽう大だい師しのの勅しやく法ぽうををりりががららにに大だい石いしありり里さと人ひと山さん神かみととおおれれらら

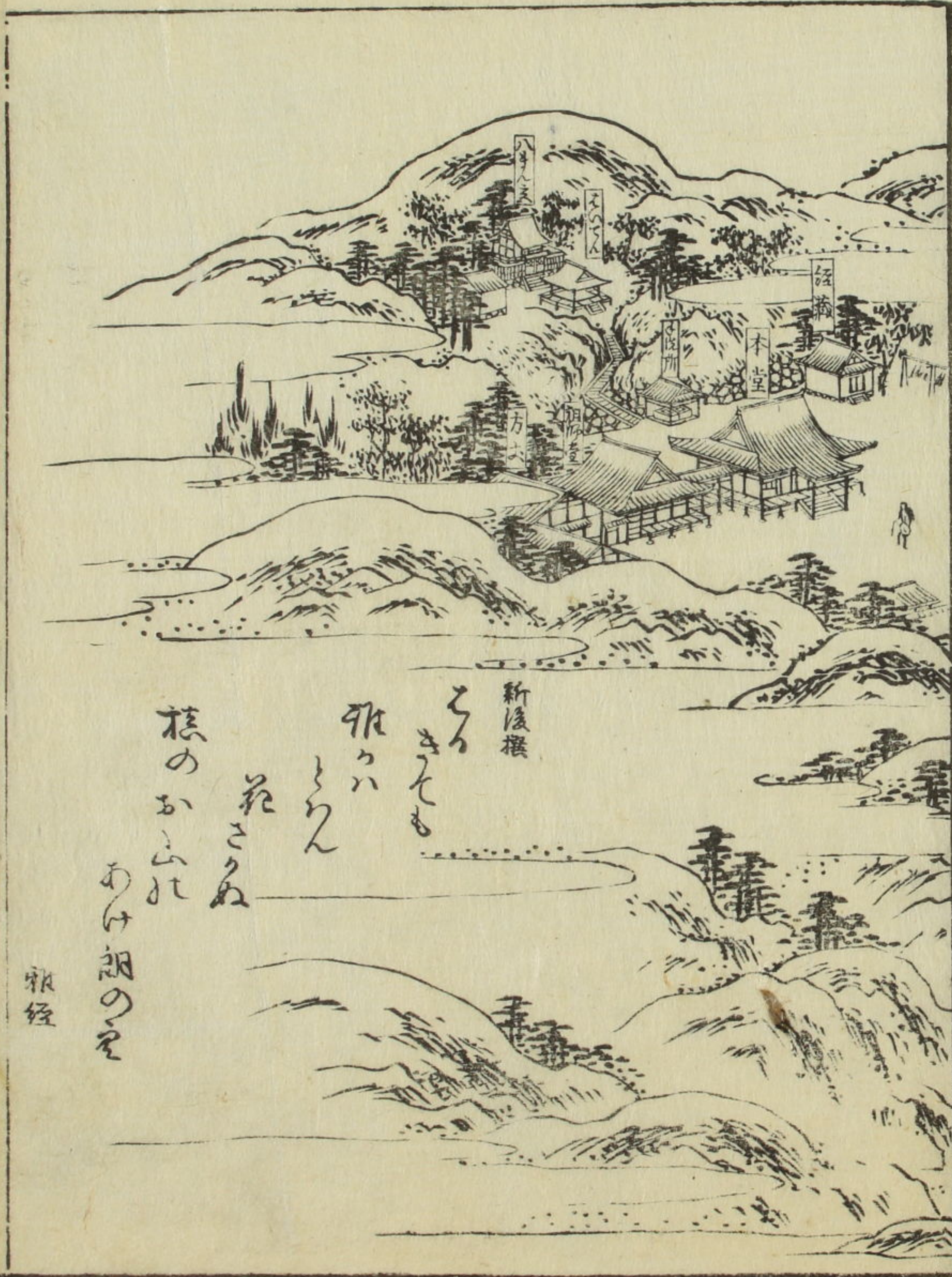
梅うめ畑はたけ若わ妙みやく寺じのの美み巖いわ中ちゆう小せう志しをを柳やなぎ尾お小せう屬じやくとと若わ妙みやく寺じのの社しゃををせせのの人ひとととああららむむ若わ妙みやく寺じ

こころろ般ぱんくくてて消しょうににああららぬぬききととんんののああららむむせせたた庭にわははななりり



柵尾山高山寺





新法撰
 木堂
 方丈
 松の
 花さぬ
 根のおふれ
 わけ調のそ

報経

槇尾山西明寺
まきのびにしやうみやう



報経



浪速
國丸
のり
る雄
も雄



高雄山神護寺

たか
のり
る雄
も雄

欽定
鮮京會

古今遷建曰帝都天子之居天子以四海為家豈有常處哉惟其所在即以為都都者人之所都會云爾以衆大而言謂之京都周公相成王都洛邑諸侯藩屏四方朝明堂後漢李唐亦都洛陽倣

本朝聖主之例以京師稱洛陽歟抑平安者天下之中而有德無窮之都也從長罔之遷都已來歷千載而賢聖在位景星見於天由是庶民浴泰平之化時遍覽四方山川之勝裁配畫工信繁令摸之還尋昔人之經蹟詳記其由緣全之名曰都名所圖會嗚呼聆左思

之博才蜀都賦歷年所况予撰不涉年
 寡聞淺識何寧其耻後君子正遺漏
 俟澡洗而已季秋十三夜於斑竹亭書
 皆安永九年也

選者 平安 秋里湘夕



畫工 浪花春朝齋竹原信繁



安永九年

子中秋

彫工 京師

永島六右衛門
山本長九衛門
伊澤又治郎

同 浪花

勝江喜平次
岸本彦右衛門

書林 吉野屋為八梓

山城名勝志

全部二十二冊
圖十二枚箱入

山州名跡志

全部二十二冊

此書ハ山城郡中社佛圖の傳記高貴秘藏乃書
 歌人英哲等の経蹟と教百編の引書採ひて詳り
 記一舊事と正し助し丁の云あり
 此書ハ山城郡中社山出谷神祠堂一宇も洩さば
 其由縁叙詳記一在存れ地ハ白圍取冠一亡廢の
 地ハ黒圍と並て其虛實を辨せ山州の名所と好む人
 巡覽れ便くし物と云あり

